



ヒートポンプ・蓄熱センター理事長  
三菱総合研究所理事長  
東京大学総長顧問

小宮山 宏

## 課題解決先進国の実現

### ピーク電力削減と省エネ・省CO<sub>2</sub>を 同時に達成できるヒートポンプ・蓄熱システム

一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターでは、冷房需要が本格化する7月を「蓄熱月間」と銘打ち、各省庁、団体よりご支援・ご協賛をいただき、「地球環境問題やエネルギー問題解決に有効と考えられるヒートポンプ・蓄熱システムの普及に向けたナショナルムーブメントの活発化」を目的に、ピーク電力の削減に貢献するヒートポンプ・蓄熱システムの普及に向けた活動を展開してまいりました。

その一環として、さまざまなお立場からヒートポンプ・蓄熱システムの普及にご尽力いただいた107企業・団体の皆さまに感謝状を贈呈させていただきました。

さて、エネルギー利用の当面の課題としては、ピーク時間帯における節電が挙げられます。中長期的な視点では、東日本大震災以降もエネルギーセキュリティの確保や地球温暖化対策が重要であることに変わりありません。これらの重要かつ困難な課題を克服するには、今までよりもさらに踏み込んだ省エネルギーの徹底が不可欠です。私は日本が持つ先端技術の向上・普及促進により、これらの課題を克服できると考えています。また、新興国でも経済成長によるエネルギー需要拡大により、同様の課題を抱えています。まず、日本がエネルギー使用効率の高い快適な社会をつくり上げ、これらの技術を課題解決先進国として海外展開することこそが、日本が求められている国際貢献であり基本戦略だと考えています。これが私の提唱する「プラチナ社会」です。

ヒートポンプ・蓄熱システムは、ピーク電力の削減と、省エネ・省CO<sub>2</sub>を両立できる高効率システムです。夜間電力の活用により、経済性も優れていることから、事務所建物や商業施設、病院、工場など多くの建物に導入されており、国内導入件数は3万件を超えています。これらの、ピーク電力の削減量は約190万kW（推計）に達しており、一般家庭の約50万件分※に相当します。今後もさらに、ヒートポンプ・蓄熱システムの技術向上と普及促進により、当面の電力危機克服と将来の課題解決先進国実現に貢献することを期待しております。

※標準家庭の契約電力を4kW（40A）として算定